

安全で住みよい
まちづくり

防災への意識改革

Vol.301

東日本大震災から7年

2011(平成23)年3月11日午後2時46分に震度7、マグニチュード9.0という日本観測史上最大の地震「東日本大震災」が発生しました。死者19,575人、住宅全壊121,776棟(H29.9.1現在)と大きな被害をもたらしました。地震発生から7年が経過した現在でも、行方不明者は2,500人以上、避難者は約75,000人います。



出典：(一財)消防防災科学センター

東日本大震災は、人ごとではない

- ▽日本には、地震に対して安全なところはない
- ▽地震はいつ、どこで起こるか予測ができない

南海トラフ地震が発生すると、本町では東日本大震災と同じ「震度7」の揺れが観測されるといわれています。地震による被害は、死者数約200人、建物の全壊・焼失数約3,100棟と想定されています。(理論上の最大想定モデル)

だからこそ、事前の備えが必要なのです。

「非常持ち出し品」と「備蓄品」の準備を

避難時に備え、非常食やラジオ、懐中電灯などの生活用品を非常持ち出し袋に入れて準備しておきましょう。また、体調不良やケガに備えて応急医療品も入れておきましょう。

南海トラフ地震の被害は、東海から九州地方まで極めて広域にわたり、何日間も支援物資が届かないことが予想されます。備蓄品は、各家庭で1週間分をめどに準備しておきましょう。

このほか、家具の転倒防止金具の取り付けや、防火・防災訓練に参加して、日ごろから災害に備えましょう。

非常持ち出し品

男性で15kg程度、女性で10kg程度が目安ですが、背負って避難できるよう各自で調整しましょう。

- 非常食関連
 - 飲料水(1.5ℓ程度)
 - 携帯食 (チョコレート、栄養補助食品など)
- 救急・衛生用品関連
 - マスク 生理用品 除菌シート
 - 持病薬(併せて処方箋のコピー)
 - トイレットペーパー
- 貴重品関連
 - 現金(10円、100円硬貨含む)
 - 免許証など身分証明書のコピー
 - 健康保険証のコピー
 - 通帳のコピー、印鑑
- 生活用品関連
 - 懐中電灯(予備電池)
 - ヘルメット 手袋(作業用)
 - 運動靴
 - 携帯ラジオ(予備電池)
 - 携帯電話用充電器・バッテリー
 - 万能ナイフ
 - 筆記用具(メモ、ペン)
 - タオル 使い捨てカイロ
 - 雨具 下着



備蓄品

少なくとも1週間以上生活できるよう準備しましょう。飲料・食品の賞味期限、薬品や電池の使用期限などをチェックして新しいものに交換しよう。

- 非常食関連
 - 飲料水(1人1日3ℓ×7日以上)
 - 非常食(缶詰、レトルト食品、お菓子、栄養補助食品など)
 - ウォータータンク(給水用)
- 生活用品関連
 - 衣類 毛布
 - ろうそく ライター
- 調理器具関連
 - カセットコンロ・ガス
 - ラップ
 - 調味料
- 救急・衛生用品関連
 - 簡易トイレ
 - ウエットタオル
 - 医療品セット (常備薬、消毒液、ばんそうこう、包帯など)
 - 持病薬(併せて処方箋のコピー)
 - 生理用品 トイレットペーパー



各家庭に応じた備え

家族で何が必要かを話し合い、準備しましょう。

- 高齢者用
 - 介護食
 - 大人用紙おむつ
 - 入れ歯 補聴器
- 乳幼児用
 - 粉ミルク 離乳食
 - 紙おむつ
- 疾患のある方
 - 処方箋のコピー
 - 持病薬
- ペット用
 - ペット用食品
 - リード ケージ



防災行政無線情報は電話でも

防災行政無線が聞き取りにくい場合は、☎(48)7030で確認してください。最新のメッセージを聞くことができます。

防災交通課 ☎(48)1111(内1210)

